1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276700172		
法人名	有限会社　旬彩亭		
事業所名	グループホーム旬彩		
所在地	静岡県磐田市今之浦１－１－１３		
自己評価作成日	平成25年2月22日	評価結果市町村受理日	平成25年5月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosyoCd=2276700172-00&PrefCd=22&VersionCd

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社　福祉第三者評価・調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町４－１
訪問調査日	平成25年3月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者一人一人の尊厳を守り穏やかで安心した日常生活を営むことができるよう支援いたします。
ご利用者の住み慣れた地域のもう一つの自分の家として過ごせるように共に歩む姿勢で誠意あるサービスを提供します。
ご利用者の特性に配慮した居心地のいい環境を提供します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

所在地域で初のグループホームとして10年有余、高齢者向け賃貸住宅の建物に、小規模多機能型居宅介護事業所と共に併設、運営されている。仕切りを取り払った両施設の共有空間は、広さにあまり余裕はないものの、工夫された室内に南向きの窓からの陽射しが明るく暖かい。利用者同士が交流する様子は、気さくな寄り合い所の雰囲気を醸している。管理者はケアマネージャーと共に、地域との連携を強める新しい試みを始めており、それらが利用者・家族等全ての関係者にとって、理念に言う「個人の尊厳を守り、地域に根ざした施設で充実した日々を過ごす」ことにつながるよう、一つひとつの取り組みを継続して行くことが期待される。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「利用者の尊厳を守り、地域との交流を深めながら居心地のいい環境を提供する」ことを理念としている。現在の理念、方針に関して管理者の介護に対する精神は職員もよく理解し、日常の業務を遂行してくれている。	理念を明文化し施設内やパンフレットに掲示して、地域における事業所の在り方を指し示している。管理者は朝礼等の機会に職員への周知を図り、理念を共有すよう努めて実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議をはじめ、地域の行事、総会などに積極的に参加している。また「旬彩たより」を毎月発行し、ご家族や周辺施設にお渡しし当ホームを知っていただいています。散歩中に防犯パトロールのタスキをかけている。	住民に施設を見学してもらう企画を進めている。自治会の協力で、防犯パトロールのタスキをかけて散歩し、わずかばかり地域の防犯活動に参加している喜びと、施設に対する親近感につながるような取り組みをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで認知症に対する理解や支援方法の仕方を知っていただき、この活動を通して市との連携を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に一度、運営推進会議をはじめ、毎月の業務ミーティングや「旬彩たより」で利用者の状況報告や活動を知っていただき、そこでの意見を介護サービス・防災対策に活かしている。	充実した話し合いのできる、双方向的な会議になりつつある。そこでの意見から、主題を事前に伝え出席者から多数の発言を引き出す工夫や、他施設職員との会議での交流などの取り組みを計画中である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市役所の担当者に参加していただき、顔なじみとなり現在の施設の取り組みを報告したり地域との連携等についてご相談させていただいている。	行政担当者との交流は継続的に行っている。ケアに関する具体的な事柄から地域との係わりまで、何でも相談できる関係が築かれており、適切な助言を受けて業務に反映している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	すべての職員に拘束について理解してもらい、玄関の施錠・身体拘束等はしないようにしている。 ドアにチャイムを設置する等拘束をしなくてもいいよう工夫している。	身体拘束につながる恐れのある言動を、見過ごされがちな些細な事柄まで「ひやりはっと」に記録している。管理者はそれに基づき勉強会等で職員に正しい理解を促し、身体拘束のないケアの実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	すべての職員に虐待について理解してもらい、身体的虐待はもちろん、言葉による虐待・無視・不平等差別等、日常的に走りやすい行為を特に注意している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去に成年後見制度の申請をした方がおり、その時の流れや書類などをまとめて資料として保管してある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には利用者・家族と要望や不安な面について十分な話し合いをし、納得いくまでご説明している。解約に関しては今までご家族側からの要望がほとんどなので、しこりが残らないよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に見えたときは、面会簿に記入してもらうほか、意見などを言いやすい雰囲気作りに努め、相談・要望・意見等時間を取って話し合っている。また、その意見や要望は職員に周知しサービスの向上に努めている。	利用者・家族が何時でも意見等を表せる機会を設けている。管理者はサービスの質をさらに向上させるには、より多くの要望等を聞き運営に反映させる必要があると考えており、その為の工夫を現在検討中である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会社としての方針・変更点などの運営に関しては、全体のミーティングで発表し皆の意見を聞いている。また、個人的に疑問点・意見があれば聞き、内容によっては運営者に相談している。	管理者と職員の会議とは別に、直接代表者に意見・提案等上申できる仕組みが作られた。全職員からの要望等に迅速に判断が下され、すでに効果が表れている。新たに、「レク委員会」の開催や制服の採用が決まった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日常の勤務状況などを密に連絡しあい、理念達成の為お互いが向上するよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各事業の研修は勿論講演会には出来る限り参加するよう働きかけている。また、研修の内容については全体のミーティングの時に発表してもらい、皆で共有するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の事業所連絡会に参加し、他の施設との相互の交流を深めている。市内の管理者どうしの連絡をもち、情報交換などをして運営に反映している。近隣施設と合同研修を行いスキルアップにつなげている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者と向かい合う時間を作り納得のいくまで十分話し、どうしても不明な点はご家族に連絡し、助言を頂き、再度話し合った事をケアプランに反映している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族には気軽に話していただけるような雰囲気を作り、話を聞く耳をもって接している。立場により内容も変わってくるので一人だけでなく、いろいろな立場の人と話しが出来る機会を作っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	電話での相談や直接見学に来られた時、今何に困っているのかをよく聞き支援の説明に努めている。その内容に応じて他のサービス・施設なども紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として常に教えられることも多く、それぞれ尊敬できる特技・長所を持っている。教えていただいたり、学んだことに関しては感謝の気持ちを素直に表すと同時に今後の介護に活かせるよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度のお便りを通して活動内容や利用者様の様子を知っていただくと共に、問題がある場合、ご家族に相談し解決に向けて話し合いをしたりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・親戚が面会に見えられたり、電話があったときは職員から一言近況をお知らせしている。	一人ひとりの思いに添うことができるよう、新たに「レク委員会」を開催し、馴染みの関係を大切にする取り組みを始めている。外出に際しできるだけ希望を取り入れ、関係の継続に配慮した支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士でお互いに助け合ったり声を掛け合ったりしている姿が日常的にみられる。（食事に行くときの声掛け、就寝時、食器拭き等）		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	「何かあったらいつでもご相談ください」「近くまで来たらお立ち寄りください」のような声掛けをしている。長期の入院をされている方には、見舞いに行き声を掛けている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自宅で過ごしていた習慣、本人の思いを大切にしている。例えば、朝もう少し寝ていたいという方には休んでいただいている。体調不良を訴える方には本人の希望を考慮に入れ自室でお食事をとってもらうこともある。	居室に戻る少しの時間や、入浴でゆったりとした気持ちの時に本人の思いを聞くように努めている。思いの訴えから、散歩だけでなく回転寿司や最寄りの神社に立ち寄ることができるようになっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活してこられた生活歴をご家族様よりお聞きして、なるべく近い状態でのサービスを提供するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各個室にてプライバシーは確保されており、談話室、事務所は出入り自由でお好みの場所にいられるように誘導している。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の日常の様子・本人・ご家族の意見を聞き取り、実践するよう努力している。毎日の申し送り、月数回の担当者ミーティングでの意見や情報を月1回の全体ミーティングで報告、介護計画の検討している。	ライフサポートプランの様式を用いて、本人・家族の意向を確認しながらケアプランを作成し、全体ミーティングにおいて検討している。利用者家族と気軽に話し合える環境ができつつある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日報・夜勤日報・日誌にて客観的な出来事、主観的な考察を交えて記録しており、職員は誰でも目を通すことが出来るようにしている。また、引継時にはその日のリーダーや職員がその場にいない職員へ連絡ノートに伝言を記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設自体がマンション形式のため、部屋も広くご家族も入居者と共に宿泊されることがある。ご家族・親戚・友人がみえられたときは、お好みの食事を作って召し上がることも出来る。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩時等地域の方々と接する機会を設けている。また、民生委員の方も運営推進会議に毎回出席してくれており、時々施設にも立ち寄ってくれる。行事のイベント参加でのボランティアの方々が協力し支援してくれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院と連絡を密にして適切な医療サービスが受けれるようにしてくれている。異常・緊急時には協力医院の医師が往診にすぐ来てくれる。	希望する医療機関の受診は継続されている。与薬に関し、文書で薬剤師に相談と確認を行う態勢ができてきた。医師と家族及び施設との情報共有もしている。訪問歯科受診もあり、適切な支援ができるようになった。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤ではあるが看護師が1名職員として勤務している。日常の入居者の健康チェック、服薬管理、受診の付添、急変した時は夜でも休日でも出勤してくれ体調を見てくれる。電話でも相談助言をしてくれる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	基本的には担当医師、ご家族の判断に任せているが、当方としてはいつ戻られてもいいように準備しその旨をお伝えしている。見舞いには時間が許す限り職員が出かけ励ましの言葉をかけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に同意書を交わし、もしもの時の対応についても話し合っている。看護師と職員と常に入居者の体調変化に注意し急変に備えている。かかりつけ医に連絡相談し、助言・指導を頂いている。	入居時に家族、利用者と話し合いを行い、重度化や終末期における施設での支援方針を書面によって確認している。状態に応じて医療施設等との連携の仕方など、関係者と繰り返し話し合い適切な支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故に対しては事業所内で勉強会を行い救急救命士の資格を持つ職員に話を聞いている。また、マニュアルも作成し職員に渡している。急変時の延命処置等も事前にご家族の同意をもらい迅速に対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行っている。上階に住んでいる方にも参加していただくよう声を掛けている。職員緊急連絡網にて伝達訓練も行っている。	居室の入口やフロアーに非常用ランプを設置し、緊急時に利用者が混乱しないよう備えている。防災倉庫の備品・備蓄等を一覧にまとめ、地域と情報を共有して相互使用できるよう連携している。	課題が一つひとつ改善されている。地域との連携にも大きな前進が見られる。備蓄の飲料水は十分に確保されているが、食糧の備蓄量に改善の余地が残されている。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	便・尿失禁をした場合はみんなのいる場所では着替えを行わず、言葉にも注意している。 記録などは入居者の目に付かないように保管に注意している。	「できるものは何か」ということを考えて一人ひとりへの声掛けを行っている。言葉使いには特に注意を払い、自尊心を傷つけることのないよう対応している。個人情報が記載された書類等の取扱いにも十分配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉以外にも顔色や態度からも感じ取る努力をしている。にこやかに身振り手振りも交えてわかってもらうよう日頃から入居者と接している。 外出や買い物等利用者の「したい」気持ちを尊重するよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一応一日のスケジュールは決まっているが、決して急かすことの無いようにしている。集団生活の中でも遅れにはこだわらず、状況が許せば皆で待つようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔を保つ以外には出来る限り本人の希望通りにしている。マニキュア・化粧等その都度希望があれば手伝うようにしている。 散髪は月に1回、訪問美容に来ていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	会話の中でその方の好みを聞き、メニューに反映するようにしている。食材も季節の物、施設の菜園で採れた物を利用し話題にしながらお出ししている。また、片付けはその方が出来る範囲で一緒に行っている。	職員が交代で毎回手作りの食事を提供している。日曜日には施設内に喫茶室を開店し、好きな飲み物を楽しんでもらっている。食事量の確認はされているが水分量の確認はされていない。	高齢者の水分摂取量は大切な健康管理のバロメーターとなることから、食事量と同じく水分摂取量の確認も一緒に行うことを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は正確には測定してないが、湯呑茶碗がほぼ100ccであり一日800～900cc摂取し、脱水には十分注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨き、うがいを励行していると共に、毎週水曜日には訪問歯科にて口腔内のチェックをして頂いている。 入歯は毎食後入れ歯洗浄剤にて洗浄。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者一人一人の排泄チェック表から排泄パターンを読み取って適宜誘導するようにしている。尿意便意の無い方がおり、紙パンツを使用しているが、頃合いをみてトイレへ誘導している。	自ら意思表示のできない利用者を含め全員の排泄チェック表を作成し、一人ひとりのパターンを確認してトイレ誘導をしている。食前・食後の声掛けは全利用者を対象に行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録を残しており、職員全員がチェックできる体制にある。繊維質の食品は意識してメニューに取り入れている。散歩やレクリエーション等で体を動かすようにして、排泄を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は曜日・時間等を決めずに入りたい希望があればその方の都合に合わせて入浴していただける。入浴前にバイタルチェックを行いその日の体調によっては本人納得のうえ中止にする場合もある。	少なくとも週2回は入浴ができるように声掛けを行っている。日時は決めずに何時でも入浴できるように配慮しており、本人の訴えから毎日入浴する利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	心身に無理がない範囲で昼夜逆転にならないよう、昼間は食事・食事の手伝い・ゲーム等に参加していただき、寝てばかりにならないよう工夫している。夜間の巡回では不用意に起こしてしまわないように注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬台帳に薬の効用・副作用・注意点を記入してある。薬を頂いたときは必ず看護師による投薬チェックをしている。薬の袋に入れる紙も、朝・昼・夜・寝る前で色分けして分かりやすくし、誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理の好きな人、野菜作りの上手な人、花作りに興味がある人等その方が張り合いが持てる役割をやっていただいている。また、カラオケの好きな方にはいつでも歌えるよう準備している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム近隣の公園を日常的に活用している。その他にも、ホーム近くに遊歩道があり適度な間隔でベンチが設置されているので毎日のように散歩で利用している。季節ごとの行事では職員が見守りながら外出もしている。	施設の周りには遊歩道があり、公園や池もあって、毎日散歩するのに便利で良好な環境である。少人数のグループで行動することもあり、近隣の回転寿司に食事を兼ねて出掛けたり、コンビニで買い物をするなどの支援をしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失等の可能性があるので極力所持させていない。ご家族との同意の上で自己責任で所持してもらっている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいという希望があればどうして電話をしたいのか理由を聞き、理由によっては職員が電話をつなぎ話していただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	RC構造なので遮音性に優れ、窓を閉めると外部からの音はほとんど聞こえない。全室南向きであり、隣地との間隔も十分取ってあり、風通し・日当たりも問題なく、より良い環境を作っている。	十分な広さがあるとまでは言えない居間兼食堂であるが、南向きの窓からは明るい陽射しが差し込む。金魚鉢やソファーの配置が工夫されており、ゆったり座って新聞を読む利用者は、くつろいだ雰囲気で居心地がよさそうであった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	花や菜園等のお世話をする人や、誰でも座れるソファーを設置し入居者同士が談笑したりしている。通路には手すりも設置してあり、歩行訓練をされる人もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	バリアフリー対応型の一般賃貸マンションと同一の部屋のため各戸に玄関・廊下・居間・台所・浴室・トイレ・ベランダがあり、一人一人に適した家具調度品を用意したり、使い慣れた箪笥や三面鏡などを持ってきたり居心地良く過ごされている。	全室南向きの居室であり、履物の着脱がスムーズにできるように、座ることのできるスペースが設けられている。賃借住宅の部屋そのままで広さもあり、それぞれに風呂、トイレ、洗面台が設置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	基本的には建物全体が高齢者住宅規格になっており、バリアフリー・緊急呼び出しボタンを完備している。自室の認知が不可能な人にはそれぞれ特徴のある表示を設置し表示の高さも見やすい場所に工夫している。		